平成29年7月19日

春季学術大会のあり方についてのアンケート

一般社団法人日本医療情報学会

会　員　各　位

日本医療情報学会代表理事　　　　　　大江　和彦

同　春季学術大会のあり方検討ＷＧ長　中島　直樹

日頃の日本医療情報学会の活動へのご協力を感謝申し上げます。

さて、日本医療情報学会春季シンポジウムは、学術論文の作成支援を、選考、当日の質疑・議論を通じて行うという目的で現在行われています。福井市における第２１回日本医療情報学会春季学術大会の会期中に、これからの春季学術大会の方向性を検討する目的で、理事会の承認の下、「春季学術大会のあり方検討ワーキングスループ（ＷＧ）」を開催いたしました。このＷＧでは、春季学術大会の目的に、これまでの「充分な議論の場」「論文化の推進」に加え、この２つの目的を維持しつつ「英文化を含む国際化の推進」も加えることとしています。これに沿って、今後ＷＧではアンケートをとりまとめ、９月、１１月にはＷＧを重ね、１２月までに提案書を提出することとなりました。

本ＷＧの提案は、２０１９年度または２０２０年度の春季学術大会から反映させていただく予定です。

アンケートはＷＧでの議論を基に作成しております。アンケートの提出締め切りを８月１０日とさせていただきますので、是非ご協力をよろしくお願いいたします。会員以外の方からのご意見も受け付けております。周囲の方でご意見がある方にはアンケートに答えていただくようお願いいたします。回答は、mic3@med.kyushu-u.ac.jp 宛にお願いいたします。回答は、このＷＯＲＤに直接記載していただいても、印刷したものに回答を記載してスキャンしていただいても結構です。

なお、得られた情報は、春季学術大会のあり方の検討以外には用いませんが、アンケートの集計結果は、ＷＧや理事会以外に、学術大会などで発表する可能性があることを申し添えます。

質問１．年代、職種について

アンケートの集計に使いますので、年齢区分、職種、日本医療情報学会での立場についてお聞かせください（それぞれ１つ選んで、〇で囲んでください）。

質問１－１

年齢：20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳代

　質問１－２

職種：医師（歯科医師を含む）、看護師（保健師・助産師を含む）、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、その他医療機関勤務、企業勤務（非医療職）、医療情報研究者、その他

　質問１－３

　　　日本医療情報学会での立場：

評議員（理事を含む）、評議員以外の会員、会員以外

質問２．大会開催地域について

春季学術大会は、連合大会を開催できる大きな会場を持たない都市を重点に選ばれており、毎年1,000～1,200名程度の方に参加していただいています。しかし、地方開催では、参加者や主催者側に負担があることを指摘する意見もあります。そこで、開催場所についてお聞きします（以下から１つお選びください）。

　Ａ．現在のままでよい

　Ｂ．大会長は全国から選定するが、開催地を固定する（全国４か所程度）

その他ご意見があれば、ご記載ください。

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

質問３．合同開催について

春季学術大会について、このまま日本医療情報学会単独でなく、他の学会との合同開催を模索してはとの声もあります。そこで、以下をお聞きします（複数選択可）。

　Ａ．現在のままでよい

　Ｂ．医学医療系学会との合同開催を推進（例：　　　　　　　　　　　　　　）

　Ｃ．情報系学会との合同開催を推進（例：　　　　　　　　　　　　　　　）

　Ｄ．開催する大会長が決定すれば良い

その他にご意見があれば、ご記載ください。

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

質問４．大会の国際化について

他の臨床学会を含め、国際化対応をする学会年次集会が増えてきました。本学会も論文の英文化や国際誌への投稿、広く海外から参加者を募った学術大会の国際化を検討したいと思います。秋の連合大会はあらゆる職種が集うことから急速な対応は難しいところですが、医療情報の専門家によるアカデミックな議論の場を提供する春季学術大会での国際化はいかがでしょうか。それについてのご意見をお聞かせください（複数選択可）。

　Ａ．現在のままでよい

　Ｂ．海外からの公募アナウンスを行い、英語発表を増やす

　Ｃ．国際学会との併催を進めるなどにより、国際セッションを持つ

　　（連合大会で３年に一度ＣＪＫＭＩ併催を行っている形態）

　Ｄ．大会全体を国際学会化する

その他にご意見があれば、ご記載ください。

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

質問５．大会詳細抄録の論文化の推進と英文化について

折角学会へ抄録を提出しても論文化が停滞することが多く、PubMedへの反映や国際誌投稿への評価にもつながっていない現状があります。

質問５－１

春季シンポジウムの口演・ポスターＡの著者には、まず医療情報学会誌への、ほぼそのままの形での「春季学術大会論文」というカテゴリーでの早期出版の権利が与えられ、また、内容によっては、医療情報学会誌の原著への、一次査読免除での投稿や、Methods of Information in Medicineへの優遇推薦が得られることがあります。

このことを（１つお選びください）

　Ａ．知っていた

　Ｂ．知らなかった

これに基づき（１つお選びください）

　Ａ．このルートで論文を書きたい

　Ｂ．別の論文誌に投稿する

　Ｃ．論文を書くことは当面ない

質問５－２

各春季学術大会あるいは日本医療情報学会からの論文化、英文化に向けたサポートついてのご意見をお願いします（複数選択可）。

Ａ．現在のままでよい

Ｂ．学会側から翻訳自体、あるいは翻訳費用などを支援する

Ｃ．学会側から英文投稿先の学術情報誌の情報などを提供する

Ｄ．学会側から一定期間後に投稿の状況を確認し、何らかの形で公開する

その他にご意見があれば、ご記載ください。

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

質問６．口演の数や発表時間について

口演はじっくり聞きたいので今のままでよい、もしくは、もう少し多くの口演があってもいいのではないか、などの意見があります。そこで、

・適当な口演の数はどのくらいと思いますか。　　　（　　　）演題／大会

・適当な発表時間はどのくらいと思いますか（現在は発表３０分、質疑１０分）。

発表（　　　）分、質疑（　　　）分

その他に、口演演題についてのご要望などがあればお聞かせください。

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

質問７．ポスターの発表形式について

ポスターＡとは口演により近い形での発表（詳細抄録、発表時間など）、ポスターＢは通常のポスター発表という位置づけですが、複数のポスターＡが同じ会場で同時進行のため聞き取りづらい、口演同様にもっとゆっくりと聞きたい、もしくは他のポスター発表と同様でもよいのではないか、という意見もあります。ポスターＡ、Ｂの発表形式について、どう思われますか（複数選択可）。

　Ａ．適当である

　Ｂ．ポスターＡの発表方法を再考して欲しい（具体的に；　　　　　　　　　　）

　Ｃ．ポスターＢの発表方法を再考して欲しい（具体的に；　　　　　　　　　　）

その他、ポスター演題へのご意見があれば、ご記載ください。

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

全体を通してご意見があればご記載ください。

ご協力誠にありがとうございました。